

# ようこそ！動物ワールドへ

—「B鑑賞（1）」—

～動物をモチーフにした絵を鑑賞して、よさや面白さを感じ取ろう～

広島市立東野小学校 大久保 和恵

1 日時・場所 平成24年11月22日(木) 9:55～10:40 3年1組教室

2 学年・組 第3学年1組（男子13名 女子17名 計30名）

## 3 題材について

- 本学級の児童は、造形活動に大変意欲的で、様々な材料を使って楽しく活動することができる。特に工作や立体に表すことが好きで、意欲的に取り組んでいる。その反面、児童の中には、自分の表現に自信がもてず、イメージはあってもそれを表すことに時間がかかったり、まわりの様子が気になったりして、表現に集中できない姿が見られることがある。これまでに児童は、造形活動の中で、よさや面白さを友だちとお互いに伝え合ったり、感じたことを話したりする鑑賞活動をおこなってきた。活動後には、出来上がった作品を相互に鑑賞し、いろいろな表し方や材料による感じの違いに気づくことができた。また、昨年度は、広島市現代美術館での鑑賞プログラムに参加し、立体作品の鑑賞活動をおこなっている。アートカードを使って、簡単なゲームを取り入れ、形や色などの造形要素に着目した鑑賞活動にも楽しんで取り組んできた。しかし、思いはあっても、友だちの前で自由に感じたことを話すことに抵抗がある児童や自分のイメージを伝える言葉がうまく見つからない児童がいる。
- 本題材は、様々な描画材で表された動物をモチーフにした美術作品を取り上げ、感じたことを話したり、書いたりしながらそのよさや面白さを感じ取ることをねらいとした鑑賞活動である。第一次で扱う作品は、広島県立美術館の所蔵作品2点(片山牧羊『おぼろ』、桂ゆき『土』)、ひろしま美術館作品1点(ルドン『ペガサス』)、浮世絵1点(歌川国芳『金魚づくしーにわかあめんぼうー』)である。日本画やコラージュの技法を取り入れた油彩、版画とさまざまな描画材で描かれた作品の共通点は、いずれも動物たちが描かれていることである。4枚の中から自分の思いに合う作品を見つけ、そのよさや面白さをここでは、擬態語や擬声語オノマトペで表現したり、気に入った作品の物語を書いたり、短い言葉で表したりする。第二次で取り上げる地元在住の作家の作品は、谷原弘樹作『バクの夢』『マンドリルの思考』である。100号を超える大きなキャンパスに油彩で描かれた動物たちは、地域にある動物園で写生され、絵のモチーフとして取り上げられている。絵の中に描かれた動物達と一体化するような気持ちで作品をみるこの時期の子どもたちにとって、関心や親しみのもてるふさわしい題材である。また、子どもたちは作品の色やイメージの違いから感じたことや思ったことをわくわくした気持ちで話したり、気になる動物たちの声を考えたりできると考えられる。児童一人一人のもっている感性に働きかけ、言語活動の充実をめざした鑑賞活動にもつながることが期待できる。
- 指導に当たっては、対話型の鑑賞活動を取り入れ、自分の思いに自信がもてない児童が、友だちの発言を聞きながら、自分の思いを確かめていくことのできる雰囲気づくりに心がける。また、第一次では、導入部分で、電子黒板を使って作品を提示し、部分を拡大できるようにするなど、集中して作品に向き合うことができるようにする。話すことに抵抗のある児童のためにワークシートを工夫し、手で作品を見ながら書くことができるようにする。表現する言葉が思い付かない児童にはアート言葉カード(言葉の花かご)を活用させる。オノマトペや詩などの短い言葉やお話を書くなどの表現方法も選択肢として提示し、児童が表現方法を選ぶことで、自信がない児童にも自分らしく表現できるようにしたい。第二次の活動は、大きな絵をゆったり鑑賞するために、机などのない特別教室で行う。床に座ったまま友だちとペアワークして、少人数で自分の思いを語ることのできる場の設定をする。また、動物のせりふを考えたり、絵の題名を考えたりするなどの活動を取り入れ、どの子も楽しんで学習できるよう工夫したい。

## 4 題材の目標

- さまざまな動物の描かれた作品をみて、感じたことを話したり、書いたりしながら、そのよさや面白さを感じ取る。

## 5 題材の評価規準

	ア造形への関心・意欲・態度	工鑑賞の能力
題材の評価規準	さまざまな動物の描かれた作品を自分らしい見方や感じ方で味わおうとしている。	感じたことを話したり、書いたりしながら、さまざまな動物の描かれた作品のよさや面白さなどを形、色などの特徴を基に感じ取っている。

## 6 指導と評価の計画（全2時間）

時間	学習活動	学習活動における具体的評価規準等		
		評価規準 評価方法	十分満足できると 判断される状況	努力を要する 状況への手立て
第一次 (1時間) 本時	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">4枚の絵の中から、お気に入りのをしようかしよう</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>4枚の作品を鑑賞して、よさや面白さを感じ取る。</li> </ul>	ア (発言) (観察) エ (発言) (ワークシート)	<ul style="list-style-type: none"> <li>4枚の絵を鑑賞して、お気に入りのを選び、感じたことを<u>みんなの前</u>で話している。</li> <li>オノマトペや詩、物語などの中から、書きたいことを選び、<u>形、色などから自分らしい見方やイメージ</u>でよさや面白さを感じ取っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートに書くことで話すことに抵抗がある児童に配慮する。</li> <li>アート言葉カード(言葉の花かご)を使い、造形要素に着目させる。</li> </ul>
第二次 (1時間)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">「大きな絵」をみて、話そう</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>2枚の作品を鑑賞して、よさや面白さを感じ取る。</li> </ul>	ア (発言) (観察) エ (発言) (観察)	<ul style="list-style-type: none"> <li>2枚の絵を比べて、<u>自分なりの理由をつけて</u>、そのよさを友だちに伝えることができる。</li> <li>「大きな絵」を鑑賞して、気になる動物の思いを考えたり、題名をつけたりしながら、<u>感じ取ったことを進んで</u>発表している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペアワークを取り入れ、少人数で話せる場の設定をする。</li> </ul>

## 7 本時の目標

さまざまな動物の描かれた4枚の絵をみて、感じたことを話したり、書いたりしながら、そのよさや面白さを形、色などの特徴を基に感じ取る。

## 8 準備物

(指導者) 掲示用の絵カード4枚 電子黒板 ワークシート 手元鑑賞用カード  
片山牧羊『おぼろ』, 桂ゆき『土』, ルドン『ペガサス』, 歌川国芳『金魚づくしーにわかめんぼうー』  
(児童) 筆記用具

## 9 本時の展開

学習活動	○教師の支援 ★努力を要する児童への支援	評価規準 評価方法
1 題材と出会う。 ・動物の鳴き声クイズをする。 ・1枚の絵を選び、見えたものを発表する。	○電子黒板に写される画面が見えやすいように児童を前方に集める。	ア
2 学習のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">めあて 4まいの絵の中から、お気に入りのをしようかしよう。</div>		
3 4枚の絵を鑑賞し、その中からお気に入りのを選ぶ。	○鑑賞の視点(形、色、イメージ)を具体的に示す。 ★絵を選ぶことが難しい児童には、対話をするこゝで、児童の考えを引き出すようにする。	(発言)
4 自分のお気に入りの絵について、感じたことをワークシートに書く。	○感じたことをオノマトペや詩などの短い言葉や物語を書くことの中から、選んでワークシートに書くことを伝える。 ★表現する言葉が思い付かない児童には、アート言葉カード(言葉の花かご)を活用させる。	エ (ワークシート) (対話)
5 グループごとに交流する。	○自分の選んだ手元鑑賞用カードを示して、話をさせる。	(観察)
6 本時の学習のふりかえりをする。	○本時で取り上げた作品の中の2点は、広島県立美術館、1点はひろしま美術館の所蔵作品であることを知らせる。	(発言)

# ようこそ！動物ワールドへ

3年 組 ( )

ぼくは  番がお気に入りです。そのわけは、

---

---



## 今日の学習のふりかえり

よくできた    できた    もう少し

( ◎    ○    △ )

- ★形、色などの感じをもとにお気に入りのわけを考えることができましたか？ (      )
- ★形、色、イメージなどから自分なりに表した言葉でお気に入りの絵のよさやおもしろさを友だちにつたえることができましたか？ (      )

～ 動物をモチーフにした絵を鑑賞して、よさや面白さを感じ取ろう ～

広島市立東野小学校 佐藤 佐和子

1 日時・場所 平成24年11月22日(木) 10:10～10:55 第2音楽室

2 学年・組 第3学年2組 (男子15名 女子15名 計30名)

### 3 題材について

- 本学級の児童は、楽しんで表現活動に取り組むことができる。これまでに、自分や友だちの作品を見て自由に話し合い、よさや面白さを見付け合い相互鑑賞を楽しんできた。また、アートカードなどを使って形、色などに着目し、自分が感じたり思ったりしたことなどについて、理由をつけて話し合ったりしてきた。それらの鑑賞活動から、一つの作品に対して自分とは異なるとらえ方や感じ方があることを経験してきている。しかし、思いはあっても周りが気になって発言をためらったり、自分の思いを表現する言葉がみつからなくて、話すのをやめてしまったりする姿が見られることもある。また、自分の最初の思いにこだわり、もう一度じっくり見たり、友だちの感じ方を取り入れたりして作品の見方を深めるという意識が少ない児童も多い。
- 本題材は、様々な描画材で表された動物をモチーフにした美術作品を取り上げ、感じたことを話したり、書いたりしながらそのよさや面白さを感じ取ることができる鑑賞活動である。第一次で扱う作品は、広島県立美術館所蔵作品3点（片山牧羊『おぼろ』、桂ゆき『土』、ルドン『ペガサス』）と浮世絵1点（歌川国芳『金魚づくしーにわかあめんぼうー』）である。日本画やコラージュの技法を取り入れた油彩、版画とさまざまな描画材でかかれた作品の共通点は、いずれも動物たちがかかれていることである。ここでは、四枚の絵の中から自分の思いに合う作品を見付け、そのよさや面白さを擬態語や擬声語「オノマトペ」で表したり、気に入った作品の物語を書いたりする。児童一人一人のもっている感性に働きかけ、言語活動の充実をめざした鑑賞活動につながることも期待できると考え、この題材を設定した。第二次で取り上げるのは、地元在住の作家、谷原弘樹作『動物が街にやってきた』である。130号の大きなキャンバスに油彩で描かれた動物たちは、地域にある動物園で写生され、絵のモチーフとして取り上げられている。絵の中に描かれた動物たちと一体化するような気持ちで作品をみることができるこの作品は、児童にとって、関心や親しみのもてる題材である。また、児童は作品の形、色やイメージの違いから感じたことや思ったことをわくわくした気持ちで話したり、気になる動物たちの声を想像したりできると考えられる。
- 指導に当たっては、まず、わくわく感を大切にするために、絵との出会いを工夫したい。絵を布で覆い、部屋に入ってきた子どもたちの目に触れないようにしておくことで、絵との出会いに期待感をもたせるようにする。絵を見る時間を十分にとり、見えるものや場面の様子などについて自由に発言させたい。また、自分の感じたことや思ったことなどを話したり、それをもとに友だちと交流したりさせたい。その後、色、形などから感じたことや話し合ったことをもとに題をつけ、そう考えた理由も話させたい。

### 4 題材の目標

- さまざまな動物の描かれた作品をみて、感じたことを話したり、かいたりしながら、そのよさや面白さを感じ取る。

### 5 題材の評価規準

	ア造形への関心・意欲・態度	工鑑賞の能力
題材の評価規準	さまざまな動物の描かれた作品を自分らしい見方や感じ方で味わおうとしている。	感じたことを話したり、書いたりしながら、さまざまな動物の描かれた作品のよさや面白さなどを形、色などの特徴を基に感じ取っている。

## 6 指導と評価の計画 (全2時間)

時間	学習活動	学習活動における具体の評価規準等		
		評価規準 評価方法	十分満足できると 判断される状況	努力を要する 状況への手立て
第一次 1時間	4枚の絵の中から、お気に入り をしようかしよう ・4枚の作品を鑑賞して、よさ や面白さを感じ取る。	ア (発言) (観察) エ (発言) (ワークシ ート)	・4枚の絵を鑑賞して、感じたこと を <u>みんなの前</u> で話している。 ・オノマトペや詩、物語の中から、書き たいことを選び、 <u>形、色などから</u> 自 分らしい見方やイメージでよさや 面白さを感じ取っている。	・ワークシートに書く ことで話すことに 抵抗がある児童に 配慮する。 ・造形要素(言葉の花 かご)に着目させ る。
第二次 1時間 本時	「大きな絵」に自分のイメージ に合う題をつけよう! ・絵を鑑賞して、よさや面白さ を感じ取る。	ア (発言) (観察) エ (ワークシ ート)	・「大きな絵」を鑑賞して、自分らし く感じたことや自分の思いを <u>進ん</u> <u>で</u> 話している。 ・形、色などから感じたことをもと に題をつけその <u>理由も考えてい</u> <u>る。</u>	・ワークシートを用意 し、対話しながら一 緒に考える。 ・造形要素(言葉の花 かご)に着目させ る。

## 7 本時の目標

「大きな絵」をみて、感じたことを話したり、書いたりしながら、そのよさや面白さを形、色などの特徴を基に感じ取る。

## 8 準備物

(指導者) 鑑賞用の絵 谷原弘樹氏『動物が街へやってきた』 ワークシート アート言葉カード  
(児童) 筆記用具 探険バッグ

## 9 本時の展開

学習活動	○教師の支援 ★努力を要する児童への支援	評価規準・評価方法
1 題材と出会う。 「大きな絵」を鑑賞す る。	○鑑賞する時間を十分にとる。 ○鑑賞の視点を具体的に示す。 ○理由もつけて発表するように声をかける。 ○話しやすい雰囲気をつくる。	ア  (発言)
2 学習のめあてを確認 する。		
めあて 「大きな絵」に自分のイメージにあう題をつけよう!		
3 絵に題をつける。	★ 思い付かない児童とは、対話をしながら一緒に鑑賞 する。	(観察) (ワークシート)
4 交流する。	○自分の感じたことを自由に発言できるように、お互い を認め合うような雰囲気づくりをする。 ○その題をつけた理由も話すように声をかける。	エ (発言)
5 本時の学習のふりか えりをする。	○学習全体をふりかえって記入するように伝える。	

「大きな絵」に自分のイメージに合う題をつけよう！

3年 組 ( )

---

その題をつけた理由

---

---

---

---

---

---

---

---

---

今日の学習のふりかえり

よくできた◎    できた○    もう少し△

○形や色などに気をつけ、絵をじっくり見ることができましたか。	<input type="checkbox"/>
○形や色などをもとに、自分のイメージに合う題をつけることができましたか。	<input type="checkbox"/>